

技術の研究開発



■ 技術研究所新実験棟が完成

創立60周年を迎えた技術研究所の建替え事業の一環として、飛田給研究センターに新実験棟が完成。環境関連の実験施設を集約させ、建物自体を新技術の実証実験の場とし、ショールームとしての機能も果たします。



■ 大断面4連アーチカルバートを構築（埋設型枠の開発）

延長220mの開削区間で、国内でも例を見ない幅60mの大断面4連アーチカルバートを構築しました。底版部の施工では、施主の西日本高速道路㈱と打ち継ぎ部用埋設型枠を共同開発し、工期短縮と品質確保を図りました。



■ 羽田空港国際線ターミナルで大規模スライド工法を実施

国際線旅客ターミナルビルの大屋根（16,000m²）は、長辺柱スパン69m、トラス間スパン18mの部材を10個連結した大架構立体トラスで構成され、これを国内最大規模となる横スライド工法で架設しました。



■ 超高強度繊維補強コンクリート「サクセム」を 羽田空港D滑走路の棧橋に使用

羽田空港D滑走路の棧橋工事において、超高強度繊維補強コンクリート「サクセム」を使用した床版を795枚架設しました。鋼材に匹敵するほどの性能を持つサクセムは部材を薄くでき、100年もの耐久性を有しています。

技術の研究開発



■汚染土壌浄化工事のゼロエミッション化に成功

揮発性有機化合物（VOC）を原位置浄化する、当社の技術「エンバイロジェット工法」により、浄化土壌を場内で再利用することに加え、浄化剤（鉄粉）を回収・再利用することでゼロエミッション化に成功しました。



■鹿島ニホンミツバチプロジェクトを開始

日本在来種であるニホンミツバチの行動をモニタリングし、生物多様性に配慮した街づくり提案に反映させることを始めました。第一弾として社宅に巣箱を設置し、隣接の児童館で採蜜体験などの環境教育を実施しました。